ほっぷ・ステップ・JUMP！

（保っ父）　１９９２・８・６

ＶＯＬ．１５　　発行　北海道の子どもと保父の会

＜６月の例会報告＞

今回の例会には、市内・外より十人が集まり、広い会議室のテーブルが久し振りに人で埋まりました。

最初に小田会長より、ＶＯＬ．１３でもお知らせした札幌私保連の機関誌の件について話しがありました（３ページ・４ページに掲載。今後も随時掲載します）。これについては、小田氏でなく保父の会が執筆の依頼を受けたと考え、他の会員にも色々持っている思いを書いていってもらいたい。十二回の連載の中では、保父が地道にやっている部分（生きがい、やりがい等）を出しながら、保父に対する認知、視点の違い、制度について等、我々が感じている問題点を浮き彫りにしていけたら・・という事でした。

次に、「研修係」より調査研究のテーマについての話しがありました。詳しくは今後の例会や「ほっぷ」の中で、話したり、お知らせしていくと思いますが、アンケートを使っての単なる男女の比較等ではなく、実際に保育していく中で我々が、何を考え、何を得、それがどういうものなのか、という事を、例えばケース研究のような形でまとめていき、そこから男性保育者について何かを浮き彫りにしていきたいという事でした。

後半は道社協の新岡氏を迎え、福祉の業界の厳しい情勢を、国の動きや人材確保（マンパワー）問題等の話しの中で伝えて頂きました。

そのあとは、三村氏の待つ（？）居酒屋に向かい、飲み、食べ、喋りまくりました。そこでは「レク係」より野球チームを結成する話しや、札幌マラソン参加についての話しが盛り上がっていたのですが・・、なにしろ酔っぱらっての話しなので・・どうなる事やら。

文責　桑原

近況報告

■第一福ちゃん保育園で保育に燃えている遠藤龍仁氏が、大通夜間保育園に職場を変え、心機一転頑張ってます。

■七月三十一日、帯広から長南氏が札幌にでてきたので、有志で一杯飲みました。人形劇団に入り、保育園巡りをしての色々な出会いや思いを語ってくれました。

♡８月８日は例会です。たくさん集まろー！

「風に吹かれて」―保父修行物語―

その十五

光星はとポッポ保育園　船戸　敬悦

私は早朝、朝日にてらされている井之頭公園の池の水面を横目でながめながら、自転車をとばしていた。いよいよ今日から井之保での保育修行の一日が始まろうとしていた。ちょっぴり緊張している自分を感じて少し堅くなっていた。私は今まで大阪でやってきたことを思い出し、せいいっぱいに体ごとぶつかっていくしかない！と心にいいきかせていた。アパートから保育園までは、井之頭公園の中をつっきり、玉川上水ぞいを走れば自転車で十五分ほどの場所だった。もう下見はすませてあった。閑疎な住宅街の林の中に、白い二階建の小さな保育園が井之頭保育園だった。「おはようございまーす」と私はあいさつをした。もう何人かの子ども達と一人の保母さんが園庭に出ていた。私はジャージとエプロン姿に着がえてすぐ園庭に出たが、やはりものすごく緊張している自分を感じていた。「どうすればいいでしょうか？」

「子ども達の遊んでいる様子を見ていて下さい。」私はしばらく園庭で子ども達を見ていると、男の子達が数人よってきて「どうしたの？」「だーれ？」と聞いてきた。「これからみんなの先生になるんだよ、よろしく。」と答えると、「あそぼー」とさそってきた。私は「いーよー」といって、それからおいかけっこが始まった。あとから登園してきた子ども達も「いれてー」といって、遊びの輪の中に入ってきて、しだいにおいかけっこの集団が多くなっていった。私もついついのってしまって、「マテマテー」と大声でやるものだから「きゃあ　たすけてー」「にげろー」と歓声が園庭じゅうをこだましていくほどだった。その時、さっきの保母さんが「ちょっと。」と私を呼ぶのだった。私は「はい」と答えた。

「あなた楽しそうだけど、子ども達と遊ぶのはやめて下さい。」・・「私達は子ども達を見守る保育を大切にしていますので。」・・・

私はおもわず「はい！」と答えていた。ついついのってしまって・・反省していた。私は、しばらくその場にたたずんでいた。しかし・・私は、さっきの保母さんの言った言葉が気になっていた。「子ども達と遊ぶにはやめて下さい・・」子ども達とあそんじゃあいけないのか？・・私は目の前が真暗になっていく自分を感じていた。

（次号につづく）

コーナー❶

男性保育者からのメッセージ

私保連20周年記念誌の文中に、男性保育者へのインタビュー記事が掲載され、全道各地で働く、男性保育者の会の活動を改めて知ることができました。年一度の総会から始まり、月例会、設定テーマによる保育討論会、さらには会報の発行まで、地味な活動を続けてこられました。

まだまだ、女性の職場である中で大局的な視野をもち、忍耐強く仕事をされている男性保育者の日頃の悩みや言い分など、女性保育者には見えない部分、知りたい部分を広くとらえて見たいと考えておりました。

この度、新企画として男性保育者にご登場願いまして、「男性保育者からのメッセージ」と題し12回のシリーズで執筆いただくことになりました。尚、お読みいただいた会員のみなさまからの、感想、提案、女性保育者からの言い分など広報部にお寄せいただきお互いの立場をより理解し合い、今後の保育により力強い励みとなることを期待して、一筆目は、小田進一会長（発寒ひかり主任保父）にお書きいただきました。

私たち男の保育者が保育現場で仕事をするようになって、おおよそ20年余になるでしょうか。昭和52年には政令が改正され、女子に限るという法律の条文が削除されて、資格試験を受けることができるようになりました。これを契機にして、全国に男の保育者が多く生まれてきました。

教員志望であった者・社会福祉志望であった者達が、乳幼児との世界をどのように開拓できるかと夢を抱いて保育園に飛び込んでいきました。厳しい男の社会からの落ちこぼれが、子どもの世界に逃避してくるのではと、危惧する向きもあったようです。それはそれとして、不安定な状況を承知で勤めたとはいえ「迷い」を持っていた者も多かったようです。新聞はじめマスコミにも取り上げられました。

しかし、様々な状況のなか保育者としての自己確立が難しかったのでしょう、これまでに保育者の道を途中であきらめた方は、札幌だけで十数名にもなります。

現在は札幌市の保育職員として4名、この札幌私保連のなかにも現在11名の男性の保育者がおります。ご記憶と思いますが、昨年の私保連コーラスの男性パートには、園長先生に混じって九名の「保父」が参加していました。

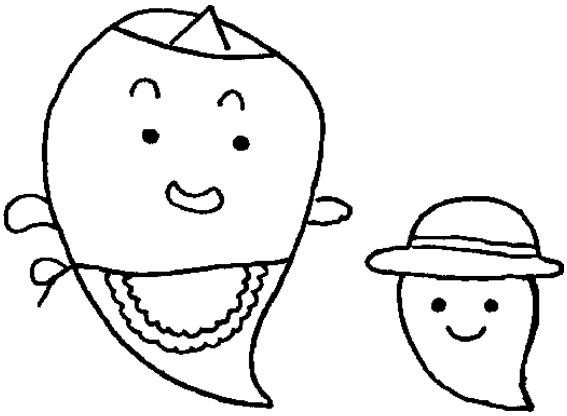
私達は、「北海道の子どもと保父の会」という集まりを持っています。保育者、施設職員、学生、ケースワーカー、絵本屋、刑務官等が札幌・函館・旭川・鵡川など全道各地から25名ほど参加しています。年齢も20代前半から　代までですが、今のところメンバー全員が保育経験者です。

二ケ月に一度「かでる2・7」で例会を持ち、会報も発行しながら、子どもについて、保育について、語り合っています。

私保連の先生方には、とても得難い機会を与えられたと感謝しております。

「保父」達の思い等々、次回以降にお知らせしたいと思います。

北海道の子どもと保父の会
会長　小田　進一



コーナー②

男性保育者からのメッセージ

紙面をいただいた一〇六号に、保父達の気持ちを伝えて行きたいと書きましたが、気持ちに限らず、実践上の課題、資格について、保父達の集いの活動の内容等々、お知らせしたいことは沢山あります。

今回はとり合えず、今年初めて保育園で仕事を始めたフレッシュな人材の生の声をお知らせ致します。尚、次回は「保父の会」のこれまでの歩みをと思っております。

（保父会会長）

前田保育園
保父　大泉　修

青い空の下、小学校の校庭で野球ボールを汗だくになって追いかけていた自分が、まさか保育の道に進むとは・・・。人生わからないものだな、と思います。

野球から保育者へ、なぜ男性が保育の道に?、人それぞれですが僕の場合は、こんな過程でした。

野球も好きでしたが動物も好きだった僕は、捨て犬を拾ってきては友達と秘密の基地で給食の残りを食べさせて育てたり、丸太に、のみで穴をあけて、飼っていたシマリスが巣を造るのを大いに楽しみました。そんな僕が心を傷めていたのが、どこそこの動物が絶滅寸前だの、動物の住みかが奪われているなどのニュースでした。

さらに二十歳になってからは戦争や、環境問題等の社会問題について関心を持ち始めました。どうしてこうなってしまうのだろう、動物保護だの、自然保護だのと考えているうちに、人間不信に落ち入ってしまいそうにもなりました。つきつめていくと、結局は人間そのものの問題で、一人ひとりの意識や行動であることに気づきました。そうなると教育や保育というのは重要な位置を占め、特に「三つ子の魂百までも」と云う言葉があるように、きっと乳・幼児期は大切なんだろうと考えるようになりました。

そんなわけで保育の道に入ったのですが、勉強したり、先輩の話しを聞いたり、実際に現場に入ってみて、すごくやりがいのある仕事であることを実感しました。とりわけ、女性の職場と思われている保育所に男性が入ってくるのは珍しいようですが、男性と女性が子どもに関わるのは当たり前のようにも思えます。

先日、知人の家に遊びに行った時のことですが、家庭は経済的には厳しい状況ですが、お母さんと子ども三人が四畳半の部屋で実に楽しそうに、ゴムだん遊びをやっている光景に保育の原点を見たようなきがしました。

男性保育者を取巻く状況は厳しいものがありますが「冬は必ず春になる」との確信で頑張りたいと思います。

編集後記

■今回は発行が遅れてしまい、八日の例会までに届かない所もありそうです。すみません。

■先日、長南氏が来札する前、事務局宛に帯広の保父に関する新聞記事を送ってきてくれました。次号で紹介します。他の地方の方も連絡待ってます。

＜事務局＞
003　札幌市白石区北郷2条3丁目
北白石保育園内(011)874-8222